

■川上操六 陸軍軍人。優れた経論で陸軍参謀の地位を確立し、日清戦争を主導して完勝するが、激務で早世した。

かわかみそうろく

・ ・ ・ ・ ・ 1848 = 鹿兒島藩士川上親徳の三男として生まれた。

ペリー来航・1853 = 5歳 :

蕃書調所・ ・ 1857 = 9歳 :

桜田門外変・1860 = 12歳 :

造士館に学び、

薩長同盟・ ・ 1866 = 18歳 :

明治維新・ ・ 1868 = 20歳 : 戊辰戦争には鳥羽・伏見に戦い、ついで東北に転戦。

廃藩置県・ ・ 1871 = 23歳 : 上京し、陸軍中尉に任ぜられて御親兵隊付となり、

明治6年政変 1873 = 25歳 : 征韓論決裂後も官に留まり、

佐賀の乱・ ・ 1874 = 26歳 : 佐賀の乱に参戦、

初の民間工場1875 = 27歳 :

累進して少佐になったとき、

西南戦争・ ・ 1877 = 29歳 : 西南戦争起きるや、征討の詔をもたらし熊本城に入り、歩兵第13連隊長与倉知実中佐の戦死ののち、同連隊長心得として戦争を終始。

明治14年政変1881 = 33歳 :

秩父事件・ ・ 1884 = 36歳 : 大山巖に随行して、ヨーロッパ列強の兵制を視察し、

内閣発足・ ・ 1885 = 37歳 : 帰国して少将・参謀本部次長、

帝国大学始・1886 = 38歳 : 近衛歩兵第2旅団長となったが、

国民之友始・1887 = 39歳 : 再びドイツに留学し、

同国参謀総長モルトケ、次長ワルデーゼーについて用兵作戦の原理を学び、

帝国憲法発布1889 = 41歳 : 帰国すると、再度参謀次長(名称変更)に任じ、活躍が始まる。

日清戦争を予想して、幼稚な軍制をドイツ軍制に範をとって改革し、守勢作戦態勢の鎮台組織を攻勢作戦態勢の師団編制に改組するほか、大陸作戦に適應する諸準備を整え、

郡司千島探検1893 = 45歳 :

日清戦争始・1894 = 46歳 : *勃発した日清戦争に、善謀善断、完勝して、国威発揚に貢献。

戦後、新領土台湾に赴き、また南清地方・安南・東京を巡視し、さらに浦塩から東部シベリアを歴巡、'日露戦うであろう'と確信、陸軍大学校を充実し、作戦部の人事を刷新し、謀將を養成するとともに、参謀本部の全能力をあげて、対露作戦計画の立案に従事させ、みずからその指導に渾身の努力を傾ける。

子規句歌革新1898 = 50歳 : 小松宮彰仁親王に代わって参謀総長に昇格し、大将に進んだが、連年の異常の激務によって健康を害し、その年の摂河泉の特別大演習に病をおして赴いたことが、結局病気を昂進させ、

Bushidou・ ・ 1899 = 51歳 : *幾多の経論を抱いたまま、国中から惜しまれて、没した。